令和　３　年度「地理Ａ」シラバス

科目	地理Ａ	単位	２	学年	３	
使用教科書	『高等学校 地理 A』(第一学習社)			副教材等	『新版　地理 A ノート』(第一学習社)	

学習の到達目標	現代世界の地理的な諸課題を地域性や歴史的背景，日常生活との関連を踏まえて考察し，現代世界の地理的認識を養うとともに，地理的な見方や考え方を培い，国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を養う。

評価の観点			
ａ．関心・意欲・態度	ｂ．思考・判断・表現	ｃ．資料活用の技能	ｄ．知識・理解
現代世界の地理的な諸課題に対する関心と課題意識を高め，それを意識的に追究するとともに，国際社会に主体的に生きる日本人としての責任を果たそうとする。	現代世界の地理的事象から課題を見いだし，地域性を踏まえて多面的・多角的に考察するとともに，国際社会の変化を踏まえて公正に判断し，考察の過程や判断した結果を適切に表現する。	地図や統計，画像など地域に関する諸資料を収集し，有用な情報を選択，活用することを通して現代世界の地理的事象を追究する技能を身に付ける。	現代世界の地理的な諸課題についての基本的な事柄や追究の方法を理解し，その知識を身に付けている。

学期	月	学習項目	学習内容(ねらい)および評価の観点	a	b	c	d	評価方法
1	4 ｜ 5	１編　現代世界の特色と諸課題の地理的考察	◆緯度・経度の基本的なしくみを，位置の異なる諸地域の比較を通じて理解する。	○	○			・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・小テスト ・グループ討議 ・定期考査
		１章　地球儀や地図でとらえる現代世界	◆地球の自転と公転が，季節や昼夜の長さの変化に関係していることを理解する。		○		○	
		1 球面で世界を考えよう	◆緯度の違いが，世界各地の気候や人々の生活，地域区分に関係していることを考察する。		○		○	
		2 世界地図の特徴を知ろう 3 世界観の広がりと地図	◆経度の違いと時差のしくみについて，身近な題材や国土が東西に広い国々の事例をふまえて理解する。		○	○	○	
		4 国家の領域と領土問題	◆国境や領土をめぐる問題について考察する。	○			○	
		5 国家を超えた結びつき	◆冷戦終結後もあいつぐ地域紛争や地球的な課題を解決するために，国連の重要性が増していることを考察する。	○			○	
		6 交通機関の発達と縮小する地球世界	◆交通機関の発達が私たちの生活に与えた影響について理解する。		○	○	○	
		7 情報・通信で一体化する世界	◆情報通信技術の発達・普及が私たちの生活に与えた影響について理解する。		○	○	○	
		8 人・「もの」・資本で結びつく世界	◆グローバル化が私たちの日常生活に与えた影響について学習し，人や「もの」・資本の国際移動について考察する。	○	○	○	○	
		２章　世界の人々の生活を取りまく地理的環境	◆河川がつくる山地・平野のさまざまな地形について，侵食・運搬・堆積などの作用をふまえて理解する。		○			
		1 さまざま場環境で暮らす人々	◆海岸でみられる地形の成り立ちと種類，特徴について，人々の生活とのかかわりをふまえて理解する。	○	○			
		2 世界的視野から見た地形	◆世界の地形の成り立ちについて地球規模で考察する。	○		○		
		3 さまざまな地形と生活	◆氷河地形・カルスト地形・乾燥地形の成り立ちと種類，特徴について，人々の生活とのかかわりをふまえて理解する。	○	○	○		
	6 ｜ 7	4 世界的視野から見た気候	◆気候の特徴と人間生活とのかかわりについて考察する。	○	○		○	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・小テスト ・グループ討議 ・定期考査
		5 世界の気候と生活	◆気候は，気温・降水量・風などの気候要素から構成されていることを，気候因子の影響をふまえて理解する。	○	○			
			◆ケッペンの気候区分と分布の特徴を理解する。	○	○	○	○	
			◆熱帯における各気候区の分布や特徴について理解する。		○		○	
			◆乾燥帯における各気候区の分布や特徴について理解する。		○		○	
			◆温帯における各気候区の分布や特徴を理解する。		○		○	

学期	月	学習項目	学習内容(ねらい)および評価の観点	a	b	c	d	評価方法
1	7		◆亜寒帯・寒帯における各気候区の分布や特徴を理解する。	○		○	○	・授業態度 ・発問評価
			◆農業の発達と自給的農業・商業的農業について理解する。		○		○	・提出課題 ・小テスト
			◆さまざまな製品をつくる工業の発達と種類について理解する。	○ ○	 ○		○ ○	・グループ討議
		6 世界の民族・宗教と生活・文化 7 生活・文化を支える産業の地域性	◆世界の三大宗教と主要な民族宗教の特徴と分布について理解するとともに，宗教と人々の生活とのかかわりについて考察する。	○	○	○	○	・定期考査
		３章 世界の諸地域の生活・文化 1 東アジアの暮らしを学ぶ	◆人口大国である中国の人口問題とその対策について理解するとともに，将来への展望を考察する。	○	○	○	○	
			◆中国における農業と食文化の地域的特徴を，自然環境をふまえて理解する。		○		○	
			◆中国における工業化の進展と，「世界の工場」とよばれるようになった背景について理解する。	○	○		○	
			◆経済発展に伴う都市生活の変化により，中国が「世界の市場」とよばれるようになった背景について理解する。	○	○		○	
			◆朝鮮半島の地形の特徴を，北部と南部の比較を通して具体的に理解する。	○	○		○	
			◆日本と朝鮮半島の交流と歴史について理解するとともに，韓国と北朝鮮との関係について考察する。		○		○	
			◆韓国の急速な工業化と経済成長について，世界情勢とのかかわりをふまえて理解する。	○	○		○	
2	9	2 東南アジアの暮らしを学ぶ	◆東南アジアの自然環境について，季節風（モンスーン）の特徴に着目して理解する。			○	○	・授業態度 ・発問評価
			◆東南アジアの歩みと近年の発展について，近隣地域とのかかわりや歴史的背景をふまえて考察する。	○	○		○	・提出課題 ・小テスト
			◆東南アジアでさかんに行われている稲作の特徴を，自然環境と農業の近代化を関連づけながら理解する。				○	・グループ討議
			◆東南アジアの工業の成り立ちと，モノカルチャー経済からの脱却のために各国で進められた工業化の特徴を理解する。		○	○	○	・定期考査
			◆工業化を背景とした経済発展が，地域にどのような変化を生じさせているのか，事例に考察する。	○	○		○	
		3 南アジアの暮らしを学ぶ	◆インドとその周辺の自然環境について，山脈や平野の位置，河川の流れや季節風(モンスーン)の影響などに注目して，理解する。	○	○		○	
			◆「インド世界」とよばれる南アジアの国々の歴史を，植民地支配や宗教の対立などをふまえて理解する。	○	○		○	
	10	4 北アフリカ・西アジア・中央アジアの暮らしを学ぶ	◆中央アジア・西アジア・北アフリカで広く信仰されるイスラームの歴史と伝播，宗教をめぐる対立について理解する。	○	○		○	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題
			◆イスラームと人々の生活とのかかわりを，コーランの宗教儀礼や五行をもとに考察する。	○	○		○	・小テスト ・グループ討議
			◆中央アジア・西アジア・北アフリカの産油国が，石油資源の開発と利用をどのように進めてきたかを理解する。	○	○		○	・定期考査
		5 中南アフリカの暮らしを学ぶ	◆アフリカの地形の特徴について，台地状の地形や地溝帯の分布に着目しながら理解する。		○		○	
			◆サハラ以南のアフリカに広くみられるモノカルチャー経済の特徴と課題について，具体的な事例をふまえて理解する。		○		○	
			◆成長する市場として世界から注目されるアフリカの現状と課題について考察する。	○	○		○	
	11	6 ヨーロッパの暮らしを学ぶ	◆ヨーロッパのキリスト教に深く結びついた文化と，宗派や言語の多様性について理解する。	○	○	○	○	・授業態度 ・発問評価
			◆ヨーロッパの EU への統合の歩みを確認し，なぜ統合が進んでいるのか，その理由を考察する。	○	○	○	○	・提出課題 ・小テスト
			◆EU 域内で行われているさまざまな政策を理解する。	○	○		○	・グループ討議 ・定期考査

学期	月	学習項目	学習内容(ねらい)および評価の観点	a	b	c	d	評価方法
2	11		◆地域による自然環境に対応したヨーロッパの農業について理解する。	○	○		○	・授業態度 ・発問評価
			◆ヨーロッパでの産業の発達の歴史と，近年の工業地域の変化とその特徴を理解する。	○	○		○	・提出課題 ・小テスト
			◆EU の統合・拡大によってどのような課題を抱えるようになったのかを考察する。	○	○		○	・グループ討議
		7 ロシアとその周辺諸国の暮らしを学ぶ	◆南北差と東西差に注目して，広大なロシアの自然環境の特徴を理解する。	○	○		○	・定期考査
			◆世界一広大な国土面積をもつロシアは，どのような歴史を経て現在の国になったのか，政治体制や経済の変化に注目して理解する。	○	○		○	
			◆ロシアの農業の特色やロシア経済を支える資源をめぐる動き，外国企業との関係について理解する。	○	○		○	
		8 北アメリカの暮らしを学ぶ	◆アメリカ合衆国とその周辺の自然環境にはどのような特徴があるのか，地形や気候の東西差に注目して理解する。	○	○	○	○	
			◆移民の歴史に注目し，多民族・多文化の社会が形成された過程を理解する。	○	○			
			◆アメリカ合衆国の自然環境に適した農業地域の特徴とその背景について理解する。	○	○	○		
			◆アメリカ合衆国の先端技術産業が世界をリードしている背景を理解する。	○	○			
			◆NAFTA を通じてアメリカ合衆国やメキシコとの結びつきの変化を理解する。	○	○			
	12	9 中央・南アメリカの暮らしを学ぶ	◆ラテンアメリカの自然環境について，南北と標高で異なる特徴に注目し，理解する。	○	○	○		・授業態度 ・発問評価
			◆ラテンアメリカの歴史的背景と各国の人種・民族構成の違いについて理解する。	○	○	○		・提出課題 ・小テスト
			◆ラテンアメリカの伝統的農業や大土地所有制などの特徴を理解する。		○		○	・グループ討議
			◆かつてはモノカルチャー経済の傾向が強かったラテンアメリカの産業がどのように変化しているのかを，工業化の進むブラジルを事例に考察する。		○ ○		○ ○	・定期考査
		10 オセアニアの暮らしを学ぶ	◆オーストラリアとその周辺の自然環境について注目し，理解する。		○		○	
			◆オーストラリアの多文化社会はどのように形成されてきたのか，移民の出身国の変化をもとに理解する。	○		○		
			◆自然環境に適応した農業が行われていることを降水量に注目し，理解する。	○	○			
			◆豊富な鉱産資源とエネルギー資源を輸出するオーストラリアの鉱工業について理解する。			○	○	
		４章　私たちが直面する地球的課題						
		1 地球的課題の地理的な側面	◆地球規模で直面している深刻な課題について，どのような地域的特徴があるかを理解する。	○			○	
			◆地球的課題について，世界の国々がどのように対応しているのか考察する。			○	○	
		2 人口問題	◆発展途上国に多くみられる人口増加の例として，インドの人口問題を考察する。	○	○			
			◆都市への人口集中が世界的に進んだ背景と，どのような都市問題が発生しているのか理解する。			○	○	
		3 食料問題	◆世界の食料生産・消費には著しいかたよりがあることを理解する。		○		○	
		4 都市・居住問題	◆南北格差や国内所得格差を世界的視野で学習する。	○		○		
		5 資源・エネルギー問題	◆世界の資源・エネルギー問題とその取り組みについて学習する。	○		○		
		6 地球環境問題	◆世界で起こるさまざまな環境問題について理解する。	○			○	
		7 地球的課題への取り組みと国際協力	◆私たちは地球市民の一人として何ができるのかを考察する。	○	○	○	○	

3	1	第２編　生活圏の諸課題の地理的考察 １章　日常生活と結びついた地図 1 地図をもって生活しよう 2 身近な地図を読みこなそう 3 地図表現について考えよう 4 地形図を活用しよう ２章　自然災害と防災 1 日本の自然と生活 2 自然災害に備えた暮らし	◆地図が目的に応じて使いやすいように工夫されていることを理解する。 ◆観光地図には何が強調されているのかを考察する。 ◆情報や地図のデジタル化が私たちの生活にどのように役だっているのか考察する。 ◆地形図をつくる目的や作り方を知り，その活用の仕方を学習する ◆私たちの生活と自然との関係を地域の中で見つめ直す。 ◆日本の地形や気候の特徴をとらえ，その自然環境がどのような自然災害と結びつくか考察する。 ◆火山災害の特徴と災害に備えた取り組みについて，島原や桜島の事例を通して理解する。 ◆自然災害の事例をとおして災害の特徴や地域性を学習し，災害に備える態度を身に付ける。 ◆身近な地域で発生しやすい災害とそれによる被害を予測する。 ◆地震にはどのような種類があり，どのような被害を受ける可能性があるのか考察する。	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・小テスト ・グループ討議 ・定期考査
学期	月	学習項目	学習内容（ねらい）および評価の観点	a	b	c	d	評価方法
3	2	３章　生活圏の地理的な諸課題と地域調査 1 地域調査の方法 2 水とともに暮らす「白山市」を考える	◆身近な地域には，さまざまな課題があることを考察する。 ◆身近な地域を調査するためにはどのような調査方法が有効か考察する。 ◆調査内容を発表する際には，どのようなことに気をつけたらよいか考察する。	○ ○ ○	○ ○ ○	○	○ ○ ○	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・小テスト ・定期考査

令和　３　年度「日本史Ａ」シラバス

科目	日本史A	単位	2	学年	2
使用教科書	「高等学校 改訂版 日本史Ａ」（第一学習社）			副教材等	「改訂版　日本史Ａノート」（第一学習社）

年間を通して授業態度，提出課題，調べ学習，プリント提出，定期考査にて評価を行う。

学習の到達目標	我が国の近現代の歴史の展開を諸資料に基づき地理的条件や世界の歴史と関連付け，現代の諸課題に着目して考察させることによって，歴史的思考力を培い，国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。

評価の観点			
ａ．関心・意欲・態度	ｂ．思考・判断・表現	ｃ．資料活用の技能	ｄ．知識・理解
近現代史を中心とする我が国の歴史の展開に対する関心と課題意識を高め，意欲的に追究するとともに，国民としての自覚と国際社会に主体的に生きる日本人としての責任を果たそうとする。	近現代史を中心とする我が国の歴史の展開から課題を見いだし，我が国の形成の歴史的過程と生活・文化の地域的特色を，世界史的視野に立ち多面的・多角的に考察し，国際社会の変化を踏まえ公正に判断して，その過程や結果を適切に表現している。	近現代史を中心とする我が国の歴史の展開に関する諸資料を収集し，有用な情報を適切に選択して，効果的に活用している。	近現代史を中心とする我が国の歴史の展開と生活・文化の地域的特色についての基本的事柄を理解し，その知識を身に付けている。

学期	月	学習項目	学習内容（ねらい）および評価の観点	a	b	c	d	評価方法
1	4	第１部　私たちの時代と歴史 ・私たちの時代 ・私たちの身近なところから歴史を考えてみよう	・自分自身の経験と関連させながら 2000 年代以降の社会のようすを理解する。 ・カレーライスを一つの手がかりとして，日本人の食生活を時代背景と関連させながら理解する。そのほか，日常の題材のなかからみずからテーマを設定して，情報の収集や調査をおこなう。	○ ○	○	○	○	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題
		第２部　第１章　近代国家の形成と国際関係の推移 第１節　近代への胎動 ①せまってくる外国船 ②ちからを蓄える庶民 ③近代思想のいぶき	・江戸時代の日本の対外関係について理解する。 ・近世後半の産業，教育や学問・思想などの発展について理解し，さらに，これらが近代文化の基盤となったことを理解する。	○ ○	○ ○		○ ○	・授業態度 ・発問評価 ・小テスト ・ノート提出 ・定期考査
		近代の追究① ・旅行はいつ頃から身近になったのだろうか	・日本人の旅（旅行）の変遷を，当時の時代背景と関連させながら理解する。 ・旅（旅行）の事例を手がかりとして，そのほか現代に残る風習や民間信仰にかかわる題材から課題を設定して，情報の収集や調査をおこなう。	○ ○	○	○	○	・授業態度 ・発問評価 ・課題提出
		④揺らぐ幕藩体制	・江戸時代後期の幕藩体制の動揺と諸藩の改革について理解する。	○	○		○	・授業態度 ・発問評価
	5	第２節　明治維新 ①黒船がやってきた ②志士たちの時代 ③手を結ぶ薩長 ④近代との出会い ⑤江戸幕府が終わり新政府へ	・開国に至る経緯と，幕府の対応について理解する。 ・開国以後の情勢について，幕府が崩壊した一連の流れを理解する。 ・幕末から明治初期の使節・留学生の派遣，外国人の招聘により欧米文化が導入されたことを理解する。	○ ○ ○	○ ○ ○		○ ○ ○	・小テスト ・ノート提出 ・定期考査
		第３節　近代国家の確立 ①江戸が東京になった ②天皇の軍隊がつくられた ③スローガンは「富国強兵」 ④欧米文化がはいってきた	・明治政府の初期の諸政策によって，近代日本の基礎が形成されたことを理解する。 ・明治政府の中央集権化・藩閥専制の傾向に対し，自由民権運動がおこり，国民の政治的関心が高揚し憲法制定・国会開設に至る，一連の動きを理解する。	○ ○	○ ○		○ ○	
	6	⑤日本の国境が定まった ⑥爆発する農民や士族の不満 ⑦国会開設が決まった ⑧地主制が進行した ⑨立憲政治がはじまった ⑩国会がはじめて開かれた	・初期の外交政策は，欧米に対しては不平等条約の改正，一方，アジア諸国に対しては強硬な態度で臨んだことを理解する。 ・この時期に，日本の領土が国際的に確定したことも理解する。	○ ○	○ ○		○ ○	
		第４節　国際関係の推移と近代産業の発展 ①欧米と肩を並べる国をめざして	・明治前半では，条約改正が最大の外交課題であり，この克服においては，国際情勢と国内情勢が密接に関係し，進められたことを理解する。	○	○		○	
	7	②清国との対立が深まった ③藩閥と政党が接近した ④ロシアとの戦争がおこった	・日清・日露戦争の経緯と結果，また，この戦争を経て，アジアに対して日本が勢力の拡張をおこなったことを理解する。	○	○		○	

学期	月	学習項目	学習内容（ねらい）および評価の観点	a	b	c	d	評価方法
1	7	⑤アジアへの勢力拡大がはじまる ⑥国民の生活が圧迫された ⑦綿糸と生糸が支えた産業革命 ⑧欧米の資本主義に仲間入りした ⑨貧富の差が広がった	・日清・日露戦争期において，政党政治が展開したことを理解する。また，日露戦争後の国民の負担や，政府による精神的な引き締めについて理解する。 ・日清・日露戦争の過程で，日本に産業革命がおこり，資本主義が確立したことを理解する。 ・資本主義の発展によって産業構造が変化し，これにともない，都市における貧民問題や労働問題など，さまざまな社会問題が発生したことを理解する。	○ ○ ○	○ ○ ○		○ ○ ○	・授業態度 ・発問評価 ・小テスト ・ノート提出 ・定期考査
2	9	⑩国家主義が台頭する ⑪教育が進展した	・教育の普及，また，国民統制において，教育政策や国家主義的思想がはたした役割について理解する。	○	○		○	・授業態度 ・発問評価 ・小テスト ・ノート提出 ・定期考査
		近代の追究② ・制服はいつ頃誕生したのだろうか	・学校の制服の誕生と，その背景としての政府の政策との関係について理解する。 ・制服の事例を手がかりとして，そのほか学校にある行事や教科・教材，また学校を取り巻く地域の歴史に関係するものを題材をとして課題を設定して，情報の収集や調査をおこなう。	○ ○	○	○	○	・授業態度 ・発問評価 ・課題提出
		⑫明治の文化が花開いた	・明治の学問と芸術の成果について理解する。その背景として，お雇い外国人や留学生の存在についても理解する。	○	○		○	・授業態度 ・発問評価 ・小テスト ・ノート提出 ・定期考査
		第２章　両大戦をめぐる国際情勢 第１節　第一次世界大戦と日本 ①民衆が政治を動かしはじめた ②最初の世界大戦に日本も参戦した ③成金の時代がやってきた ④朝鮮・中国の民衆が立ち上がった ⑤日本は欧米に歩調をあわせた	・第一次護憲運動・第二次護憲運動をはじめとする民衆運動の盛り上がりと，大正期における政党政治の展開について理解する。 ・第一次世界大戦に日本が参戦した意図，日本の外交方針の推移について理解する。 ・第一次世界大戦後，国際的に民族運動が高まったことについて理解する。 ・第一次世界大戦が日本に与えた経済的な影響について理解する。	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○		○ ○ ○ ○	・授業態度 ・発問評価 ・小テスト ・ノート提出 ・定期考査
	10	⑥「平民宰相」が登場した ⑦抑圧からの解放をもとめて ⑧新しい文化とモダンな都市が生まれた ⑨学問と芸術に新風が吹く	・大正期にさまざまな社会運動が活発になったこと，女性解放運動もすすんだことを理解する。 ・大正デモクラシーの風潮のなか，あらたな学問・芸術が生まれたこと，都市の発展などを背景に大衆文化が誕生したことを理解する。	○ ○	○ ○		○ ○	
		第２節　第二次世界大戦と日本 ①恐慌の嵐が吹きあれる ②日本の外交が行きづまる ③軍部の暴走がはじまった ④中国との長い戦いがはじまった	・国内的な第一次世界大戦以後の慢性的な不況と，国際的な世界恐慌による資本主義諸国の経済危機について把握し，日本および各国が，このような状況をどのように克服していったのかを理解する。 ・軍部の台頭の過程と，これにともなう政治的な状況の変化について理解する。	○ ○	○ ○		○ ○	・授業態度 ・発問評価 ・小テスト ・ノート提出 ・定期考査
	11	⑤戦争の影が文化におよぶ ⑥すべてが戦争に協力させられた ⑦アメリカとの戦争がはじまった ⑧戦争が拡大する ⑨アジア・太平洋の諸民族にかかわった ⑩生活も戦争に染まった ⑪戦争が終わった	・中国・アメリカを中心とした国際関係の変化にも着目しながら，太平洋戦争に至る過程を理解する。 ・太平洋戦争に至る過程のなかで，国民生活はどのように変化したのかを理解する。 ・日本がアジア諸国に対して与えた影響について理解する。	○ ○ ○	○ ○ ○		○ ○ ○	
		近代の追究③ ・流行歌はどのように誕生したのだろうか	・流行歌を中心とした音楽の変遷を，当時の時代背景と関連させながら理解する。 ・流行歌の事例を手がかりとして，そのほか近代に生まれた文化で，現在まで続くもののから課題を設定して，情報の収集や調査をおこなう。	○ ○	○	○	○	・授業態度 ・発問評価 ・課題提出

学期	月	学習項目	学習内容（ねらい）および評価の観点	a	b	c	d	評価方法
2	12	第３章　現代の日本と世界 第１節　日本の再出発 ①占領軍がやってきた ②日本が生まれかわる ③新しい国のしくみ ④飢えとのたたかい ⑤飢えのなかでも解放感があった ⑥民主化から経済復興へ ⑦復興への転機到来 ⑧複雑な環境のなかでの独立	・第二次世界大戦後の連合国による対日占領政策，民主化の諸改革の内容について理解する。 ・日本国憲法について，その制定までの過程や内容の特徴を理解する。 ・戦後の深刻な国民生活の実態について理解する。・敗戦後の国民生活について，食料不足などの危機的状況にあったことを理解する。一方で，アメリカ文化をはじめとするあらたな文化的動向についても理解する。 ・日本の経済復興の過程を理解する。 ・国際的な冷戦のはじまりと，日本に対する占領政策の転換からサンフランシスコ平和条約の締結に至る経緯と背景について，理解する。	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○		○ ○ ○ ○ ○	・授業態度 ・発問評価 ・小テスト ・ノート提出 ・定期考査
3	1	第２節　独立後の政治と経済の発展 ①平和への願いが叫ばれた ②保守と革新の正面衝突 ③奇跡の経済成長がはじまった ④奇跡の経済成長の影 ⑤あらたな戦争にまきこまれた ⑥豊かさと中流意識	・主権回復後の日本の国内的な政治の推移と，新しい外交関係の確立の動きについて理解する。 ・高度経済成長の実態と，その歴史的意義について理解する。また，高度経済成長期には，経済発展の一方で，都市化，農山漁村の過疎化，公害の発生など，さまざまな社会問題が表面化したことを理解する。 ・高度経済成長期において，科学技術の発達，産業構造の変化，消費の拡大など，これを機におきた変化の内容について理解する。	○ ○ ○	○ ○ ○		○ ○ ○	・授業態度 ・発問評価 ・小テスト ・ノート提出 ・定期考査
	2	第３節　現代の日本と世界 ①２つのショック ②経済大国が誕生した ③消費はファッションになった ④バブルはこうしてふくらんだ ⑤大きな歴史の転換をむかえた ⑥政局と経済が混迷する	・石油危機にともなう日本国内の動きを，国際情勢の動向をふまえて，理解する。 ・1970 年代以降の消費生活の変化，その背景としての家族形態の変化について理解する。 ・国際的な冷戦の終結後の世界情勢と，国内的な 55 年体制の崩壊について理解する。	○ ○ ○	○ ○ ○		○ ○ ○	・授業態度 ・発問評価 ・小テスト ・ノート提出 ・定期考査
	3	⑦これからの日本について考えよう ⑧時代の転換点に立って	・現在の日本がかかえる諸課題について，国際社会での役割，国内的な問題という面から理解する。 ・1990 年代以降の国民生活については，経済的背景としての雇用状況の変化，また，ネットワークの発展が大きなキーワードであることを理解する。	○ ○	○ ○		○ ○	
		現代からの探究①② ・歴史と共に生きるということについて考えよう① ・歴史と共に生きるということについて考えよう②	・これまでの学習の成果として，身近なところに歴史的なものが存在することを理解する。また，大切な文化財の存在に気づき，これを守っていくことに対して責任をもつことの大切さを理解する。 ・現在の私たちと関係の深い歴史的事柄を題材として，その課題を追究し，成果をまとめ発表する。その際に，これまでの学習の成果として，さまざまな題材が資料となることを理解しながらすすめる。	○ ○	○	○	○	・授業態度 ・発問評価 ・課題提出

令和　３　年度　「沖縄の歴史」シラバス

科目	沖縄の歴史	単位	２	学年	２	
使用教科書	『高等学校　琉球・沖縄の歴史と文化』（東洋企画）			副教材等		

学習の到達目標	地域の歴史（沖縄本島、宮古・八重山）について知り、日本史・世界史との関わりを理解する。

評価の観点			
ａ．関心・意欲・態度	ｂ．思考・判断・表現	ｃ．資料活用の技能	ｄ．知識・理解
沖縄の歴史を中心に我が国の歴史の展開に対する関心と課題意識を高め，意欲的に追究するとともに，沖縄県民としての自覚と国際社会に主体的に生きる日本人としての責任を果たそうとする。	沖縄の歴史を中心に我が国の歴史の展開から課題を見いだし，世界史的視野に立ち我が国を取り巻く国際環境などと関連付けて多面的・多角的に考察するとともに，国際社会の変化を踏まえ公正に判断する。	沖縄の歴史を中心に我が国の歴史の展開に関する諸資料を収集し，有用な情報を選択して活用することを通して歴史的事象を追究する方法を身に付けるとともに，追究し考察した過程や結果を適切に表現する。	沖縄の歴史を中心に我が国の歴史の展開についての基本的な事柄を世界的視野に立ち我が国を取り巻く国際環境などと関連付けて理解し，その知識を身に付けている。

学習内容	月	学習項目	学習内容（ねらい）および評価の観点	a	b	c	d	評価方法
１	４ ｜ ５	**１学期（４月～７月）** **導入：沖縄の伝統文化と行事** **第１章　先史時代の沖縄（概説）** １琉球列島の起源 ２琉球列島の旧石器と旧石器文化 ３宮古・八重山諸島の先史文化 **第２章　琉球王国の時代** １グスク時代と三山統一 ２中国との朝貢貿易 ３第一尚氏王統と第二尚氏王統 ４大交易時代と琉球の交易圏 ５先島の群雄割拠とオヤケアカハチの乱 **＊１学期　中間考査**	・沖縄の先史文化から、古代 から東アジア海域に交流があり、多文化共生がされてきたことを理解する。 ・宮古、八重山は独自の文化 圏を形成しており、沖縄内の 多文化性を理解する。 ・グスクの築かれた背景や古琉 球の社会の発展について理解するとともに、グスクをはじめとした文化財の保存、活用について考察する。 ・大交易時代の世界史的背景を 理解するとともに、琉球文化の独自性について理解し、文化の継承・発展について考察する。 ・宮古、八重山、奄美、久米島などの独自性を理解し、沖縄内での多文化性を理解する。	○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・グループ討議 ・定期考査
	６ ｜ ７	**第３章　薩摩の侵略と琉球王国** １薩摩の琉球侵略と琉球統治 ２日清両属　冊封使と江戸上り ３羽地朝秀と蔡温の改革 ４宮古・八重山の人頭税 **＊１学期　期末考査　＊** ５　琉球王国の産業と文化 **第４章　琉球王国から沖縄県へ** １　欧米列強の接近と幕府・薩摩藩の対応 ２　ペリー来航と琉米条約 ３　廃藩置県と旧慣温存	・薩摩の琉球侵略とその後の統 治、政治体制、社会について理解する。 ・宮古，八重山の人頭税はどのように行われたか理解する。 ・近世琉球で生まれた文化について調べ、現代の生活や行事と比較し、伝統・文化の継承発展について考察する。 ・琉球が日本に併合され、沖縄県が設置されたことを理解すると同時に、その背景に帝国主義をはじめとした世界史的な原因があることを理解する。 ・廃琉置県はどのようにおこなわれたのか理解する。	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○	○ ○ ○ ○ ○	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・グループ討議 ・定期考査

学期	月	学習項目	学習内容（ねらい）および評価の観点	a	b	c	d	評価方法
2	9 ～ 12	４近代沖縄の文化	・日清戦争後，近代的な文化がもたらされるようになったことを理解する。	○		○	○	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・グループ討議 ・定期考査
		５ソテツ地獄と南洋・南米移民	経済不況をふまえながらソテツ地獄について理解する。	○	○			
		＊＊史跡巡り＊＊	○史跡めぐりのパンフレットを作成する。	○	○	○	○	
		＊２学期　期末考査　＊	生徒が割り当てられた場所を各自調べ、作成し、当日場所の説明を行う。実施後「史跡巡り MAP」を作成。					
		第５章　十五年戦争と沖縄						
		１1920～30 年代の日本を取り巻く状況	・沖縄戦がなぜおこったのか、 世界史的な視野で理解する。		○	○	○	
		２対米関係の悪化と日米開戦	・沖縄戦の実態を学習し、戦争の悲惨さと国際平和と人権尊重の重要性を理解する。	○	○		○	
		３十・十空襲と対馬丸	・日本政府が決定した集団疎開と対馬丸の悲劇について状況を理解する。	○		○	○	
		４宮古・八重山での戦争	・宮古，八重山の戦時中の状況についてマラリア被害をふまえながら理解する。	○	○		○	
		第６章　米軍支配下の沖縄						
		１ポツダム宣言と米軍の沖縄統治開始	・戦後の焼け野原から沖縄人がどのように立ち上がってのか状況を理解する。	○	○		○	
		２米軍基地と島ぐるみ闘争	・サンフランシスコ平和条約が効力を発した後の沖縄での出来事を理解する。	○	○		○	
		３琉球政府の自治権	・アメリカ政府が初代の行政主席に比嘉秀平を任命した背景を踏まえて当時の状況について理解する。	○	○		○	
		４ベトナム戦争とコザ暴動	・ベトナム戦争が，沖縄の「祖国復帰運動」にどのような影響を与えたのか理解する。	○	○		○	
		５沖縄住民はなぜ「日本復帰」を望んだのか	・「沖縄県祖国復帰協議会」の結成と住民の意思を踏まえて当時の状況を理解する。	○	○	○		
3	1 ～ 3	**第７章　復帰後の沖縄**						・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・グループ討議 ・定期考査
		１新生沖縄県の出発	・　沖縄県民は日本復帰をどのように受け止めたのかを理解する。		○		○	
		２西山事件～沖縄返還協定にともなう密約問題とは	・密約問題と沖縄返還協定の内容を理解する。			○	○	
		３復帰にともなう沖縄の変化	・通貨の切り替えや，復帰特別措置について理解する。	○	○		○	
		４米軍基地と日本を取りまく国際情勢	・基地問題にゆれた 1990 年代を取り上げ，基地問題の変化を理解する。		○	○		
		５21 世紀の沖縄はどこへむかおうとしているのか	・現代沖縄の課題を挙げながら私たちにできることを考える。	○	○		○	
		＊3 学期　学年末考査＊						

令和　３　年度　「沖縄の歴史」シラバス

科目	沖縄の歴史	単位	２	学年	３	
使用教科書	『高等学校　琉球・沖縄の歴史と文化』（東洋企画）			副教材等		

学習の到達目標	地域の歴史（沖縄本島、宮古・八重山）について知り、日本史・世界史との関わりを理解する。

評価の観点			
ａ．関心・意欲・態度	ｂ．思考・判断・表現	ｃ．資料活用の技能	ｄ．知識・理解
沖縄の歴史を中心に我が国の歴史の展開に対する関心と課題意識を高め，意欲的に追究するとともに，沖縄県民としての自覚と国際社会に主体的に生きる日本人としての責任を果たそうとする。	沖縄の歴史を中心に我が国の歴史の展開から課題を見いだし，世界史的視野に立ち我が国を取り巻く国際環境などと関連付けて多面的・多角的に考察するとともに，国際社会の変化を踏まえ公正に判断する。	沖縄の歴史を中心に我が国の歴史の展開に関する諸資料を収集し，有用な情報を選択して活用することを通して歴史的事象を追究する方法を身に付けるとともに，追究し考察した過程や結果を適切に表現する。	沖縄の歴史を中心に我が国の歴史の展開についての基本的な事柄を世界的視野に立ち我が国を取り巻く国際環境などと関連付けて理解し，その知識を身に付けている。

学期	月	学習項目	学習内容（ねらい）および評価の観点	a	b	c	d	評価方法
１	４ ｜ ５	**１学期（４月～７月）** **導入：沖縄の伝統文化と行事** **第１章　先史時代の沖縄（概説）** １琉球列島の起源 ２琉球列島の旧石器と旧石器文化 ３宮古・八重山諸島の先史文化 **第２章　琉球王国の時代** １グスク時代と三山統一 ２中国との朝貢貿易 ３第一尚氏王統と第二尚氏王統 ４大交易時代と琉球の交易圏 ５先島の群雄割拠とオヤケアカハチの乱 **＊１学期　中間考査**	・沖縄の先史文化から、古代 から東アジア海域に交流があり、多文化共生がされてきたことを理解する。 ・宮古、八重山は独自の文化 圏を形成しており、沖縄内の 多文化性を理解する。 ・グスクの築かれた背景や古琉 球の社会の発展について理解するとともに、グスクをはじめとした文化財の保存、活用について考察する。 ・大交易時代の世界史的背景を 理解するとともに、琉球文化の独自性について理解し、文化の継承・発展について考察する。 ・宮古、八重山、奄美、久米島などの独自性を理解し、沖縄内での多文化性を理解する。	○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・グループ討議 ・定期考査
	６ ｜ ７	**第３章　薩摩の侵略と琉球王国** １薩摩の琉球侵略と琉球統治 ２日清両属　冊封使と江戸上り ３羽地朝秀と蔡温の改革 ４宮古・八重山の人頭税 ５　琉球王国の産業と文化 **＊１学期　期末考査　＊** **第４章　琉球王国から沖縄県へ** １　欧米列強の接近と幕府・薩摩藩の対応 ２　ペリー来航と琉米条約 ３　廃藩置県と旧慣温存	・薩摩の琉球侵略とその後の統 治、政治体制、社会について理解する。 ・琉球国王として清の皇帝に認めてもらうための冊封使の往来と、将軍慶賀使としての江戸上りを行う背景について理解する。 ・王国の主体性を失いかけた頃に登場した羽地朝秀と蔡温の改革について理解する ・宮古，八重山の人頭税はどのように行われたか理解する。 ・近世琉球で生まれた文化について調べ、現代の生活や行事と比較し、伝統・文化の継承発展について考察する。 ・琉球が日本に併合され、沖縄県が設置されたことを理解すると同時に、その背景に帝国主義をはじめとした世界史的な原因があることを理解する。 ・廃琉置県はどのようにおこなわれたのか理解する。	○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・グループ討議 ・定期考査

学期	月	学習項目	学習内容（ねらい）および評価の観点	a	b	c	d	評価方法
2	9 ～ 12	４近代沖縄の文化	・日清戦争後，近代的な文化がもたらされるようになったことを理解する。	○		○	○	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・グループ討議 ・定期考査
		５ソテツ地獄と南洋・南米移民	経済不況をふまえながらソテツ地獄について理解する。	○	○			
		＊＊史跡巡り＊＊	○史跡めぐりのパンフレットを作成する。	○	○	○	○	
		＊２学期　中間考査　＊	生徒が割り当てられた場所を各自調べ、作成し、当日場所の説明を行う。実施後「史跡巡り MAP」を作成。					
		第５章　十五年戦争と沖縄						
		１1920～30 年代の日本を取り巻く状況	・沖縄戦がなぜおこったのか、 世界史的な視野で理解する。		○	○	○	
		２対米関係の悪化と日米開戦	・沖縄戦の実態を学習し、戦争の悲惨さと国際平和と人権尊重の重要性を理解する。	○	○		○	
		３十・十空襲と対馬丸	・日本政府が決定した集団疎開と対馬丸の悲劇について状況を理解する。	○		○	○	
		４宮古・八重山での戦争	・宮古，八重山の戦時中の状況についてマラリア被害をふまえながら理解する。	○	○		○	
		第６章　米軍支配下の沖縄						
		１ポツダム宣言と米軍の沖縄統治開始	・戦後の焼け野原から沖縄人がどのように立ち上がってのか状況を理解する。	○	○		○	
		２米軍基地と島ぐるみ闘争	・サンフランシスコ平和条約が効力を発した後の沖縄での出来事を理解する。	○	○		○	
		＊２学期　期末考査　＊						
		３琉球政府の自治権	・アメリカ政府が初代の行政主席に比嘉秀平を任命した背景を踏まえて当時の状況について理解する。	○	○		○	
		４ベトナム戦争とコザ暴動	・ベトナム戦争が，沖縄の「祖国復帰運動」にどのような影響を与えたのか理解する。	○	○		○	
		５沖縄住民はなぜ「日本復帰」を望んだのか	・「沖縄県祖国復帰協議会」の結成と住民の意思を踏まえて当時の状況を理解する。	○	○	○		
3	1 ～ 2	**第７章　復帰後の沖縄**						・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・グループ討議 ・定期考査
		１新生沖縄県の出発	・　沖縄県民は日本復帰をどのように受け止めたのかを理解する。		○		○	
		２西山事件～沖縄返還協定にともなう密約問題とは	・密約問題と沖縄返還協定の内容を理解する。			○	○	
		３復帰にともなう沖縄の変化	・通貨の切り替えや，復帰特別措置について理解する。	○	○		○	
		４米軍基地と日本を取りまく国際情勢	・基地問題にゆれた 1990 年代を取り上げ，基地問題の変化を理解する。		○	○		
		５21 世紀の沖縄はどこへむかおうとしているのか	・現代沖縄の課題を挙げながら私たちにできることを考える。	○	○		○	
		＊3 学期　学年末考査＊						

2021 年度「現代社会」シラバス

科目	現代社会	単位	2	学年	1
使用教科書	「高等学校　新訂版新現代社会」（第一学習社）			副教材等	「改訂版　新現代社会ノート」（第一学習社）

学習の到達目標	人間の尊重と科学的な探究の精神に基づいて，広い視野に立って，現代の社会と人間についての理解を深めさせ，現代社会の基本的な問題について主体的に考察し公正に判断するとともに自ら人間としての在り方生き方について考察する力の基礎を養い，良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。

評価の観点			
a．関心・意欲・態度	b．思考・判断	c．資料活用の技能・表現	d．知識・理解
現代社会の基本的問題と人間にかかわる事柄に対する関心を高め，意欲的に課題を追究するとともに，社会的事象を総合的に考えようとする態度と民主的・平和的なよりよい社会の実現に向けて参加，協力する態度を身に付け，現代社会に生きる人間としての在り方生き方について自覚を深めようとする。	現代社会の基本的問題と人間にかかわる事柄から課題を見いだし，社会的事象の本質や人間としての在り方生き方について広い視野に立って多面的・多角的に考察するとともに，社会の変化や様々な立場，考え方を踏まえ公正に判断し，その過程や結果を様々な方法で適切に表現する。	現代社会の基本的問題と人間にかかわる事柄に関する諸資料を様々なメディアを通して収集し，有用な情報を主体的に選択し活用して学び方を身に付ける。	現代社会の基本的問題と人間としての在り方生き方にかかわる基本的な事柄や，学び方を理解し，その知識を身に付けている。

学期	月	学習項目	学習内容（ねらい）および評価の観点	a	b	c	d	評価方法
1	4 ｜ 5 月	第１編　私たちの生きる社会 世界のさまざまな課題 １．環境と私たちの生活 ①かけがえのない地球 ②地球環境のいま(1) ③地球環境のいま(2) ④私たちの地球を守るために	・これから学習していくさまざまな課題が世界には存在していることを理解する。 ・地球規模の環境問題にはどのようなものがあるかを，書籍やインターネットなどを用いて調べ，理解する。 ・さまざまな環境問題と人間の活動とのかかわりについて，教科書掲載の写真や地図を使いながら理解する。 ・環境問題への国際的取り組みを踏まえ，自然と共生するよりよい環境を次の世代に引き継ぐためにはどうしたらよいか考える。 ・地球の温暖化対策や森林破壊への考察を通して，幸福，正義，公正など社会のあり方を考察する基盤を理解する。	○ ○ ○	○ ○ ○	 ○ ○	○ ○ ○ ○	・授業態度 ・提出課題 ・小テスト ・プリント提出 ・定期考査
		２．資源・エネルギー問題と私たちの生活 ①限りある資源 ②資源問題の解決をめざして	・資源の有限性について理解を深め，原子力発電の問題を例に，資源・エネルギー問題について多角的に考える。 ・資源・エネルギー問題について，書籍やインターネットなどを用いて調べ，理解する。 ・エネルギー政策の見直しとともに新エネルギーの現状について理解し，省エネルギーと循環型社会について考える。 ・資源・エネルギー問題の考察を通して，幸福，正義，公正など社会のあり方を考察する基盤を理解する。	 ○ ○	○ ○	○ ○ 	○ ○ ○	・授業態度 ・提出課題 ・小テスト ・プリント提出 ・定期考査
		３．科学技術の発達と私たちの生命 ①科学技術の発達と生命 ②生命倫理をめぐる問題	・科学技術の発達が社会や生活をどのように変えてきたか考える。 ・医療の発達により，人類がはじめて直面する問題が生じていることを，具体的事例をあげて考える。 ・生命倫理をめぐる問題について，どのようなものがあるか新聞やインターネットなどで調べ，それらについて現状と課題とまとめる。 ・生命にかかわる課題の考察を通して，幸福，正義，公正など社会のあり方を考察する基盤を理解させる。	 ○	○ ○ 	 ○	○ ○ ○ ○	・授業態度 ・提出課題 ・小テスト ・プリント提出 ・定期考査
		４．高度情報社会と私たちの生活 ①情報の高度化の進展 ②高度情報社会の課題	・高度情報社会とは何かについて理解し，情報化の進展が社会に及ぼす影響について，新聞やインターネットなどを使って調べ，理解する。 ・高度情報社会で生きていくために必要な知識を身に着け課題についてどう取り組めばよいか考えることを通して，幸福，正義，公正など社会のあり方を考察する基盤を理解する。	○	○	○	○ ○	・授業態度 ・提出課題 ・小テスト ・プリント提出 ・定期考査

学期	月	学習項目	学習内容（ねらい）および評価の観点	a	b	c	d	評価方法
1	5	第２編　現代社会と人間としてのあり方生き方 第１章　青年期と自己の形成 私たちの一日と青年期 ①青年期とは ②青年期を充実させるために ③自立に向けて ④伝統や文化とのかかわり ⑤社会とのかかわり ⑥私たちの生きがい	・人生の中で青年期はどのような意味をもつのか考え，青年期におけるさまざまな悩みと，それを克服するためにはどのようにすればよいか考える。 ・一人前の人間として自立するためには何をしたらよいか考える。 ・伝統や文化と自らの行動様式や考え方との関係について考察する。 ・職業のもつ意味，社会に参加することの意義について書籍やインターネットで調べ，一人ひとりが社会づくりに参画していく必要のあることを理解する。 ・生涯にわたって学習していくことの意義を考える。	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	 ○ 	○ ○ ○	・授業態度 ・提出課題 ・小テスト ・プリント提出 ・定期考査
	6	第２章　個人の尊重と法の支配 私たちの一生と法 ①個人と国家 ②基本的人権と法の支配 ③世界の政治体制	・私たちの生活と政治や国家のかかわりについて関心を高め，国家はどのような考え方を背景につくられたのかを理解する。 ・基本的人権が保障されるにいたった経緯を，さまざまな情報手段で資料を収集し，具体的事例をあげて考察し，理解する。 ・世界のおもな政治体制について教科書の図などを使って理解し，真の民主政治の実現と関連させて考察する。	○ ○	○ ○ 	 ○	○ ○ ○	・授業態度 ・提出課題 ・小テスト ・プリント提出 ・定期考査
	6	第３章　現代の民主政治と政治参加の意義 私たちの町と政治 ①日本国憲法の基本原理 ②平和主義と日本の安全保障 ③冷戦終結後の防衛問題 ④平等に生きる権利と自由に生きる権利 ⑤豊かに生きる権利 ⑥新しい人権 ⑦基本的人権と公共の福祉	・日本国憲法の成立過程や明治憲法との比較，天皇の地位の変化，日本国憲法の三つの基本原理について主体的に理解する。 ・平和主義をめぐって，どのような動きがあったのかを理解する。また，自衛隊をめぐる問題について理解する。 ・日米安保体制はどのような背景から生まれ，どう変化してきたのか理解する。 ・身のまわりの偏見や差別・不平等，自由権が保障されていない問題について調べ，その解決策を考える。 ・社会権が私たちの生活をどのように変えたかを考える。また，新しい人権にはどのようなものがあるか理解する。 ・基本的人権と公共の福祉の関係について理解し，社会における望ましい解決策を，新聞などさまざまな情報手段を活用して調べ，話し合う。	○ ○ ○	○ ○ ○ ○	 ○ 	○ ○ ○ ○ ○	・授業態度 ・提出課題 ・小テスト ・プリント提出 ・定期考査
	7	⑧国会の運営と権限 ⑨内閣と行政の民主化 ⑩裁判所と人権保障 ⑪法と私たちの生活	・議会制民主主義とはどのようなものか，国権の最高機関である国会について理解する。 ・議院内閣制のしくみ，内閣の組織と権限について理解し，行政の民主化のために何が必要か考える。 ・裁判所のパンフレットなどを入手して裁判員制度を含む公正な裁判のための制度について理解する。また，憲法を守るための裁判所の権限について理解する。 ・法と道徳の違いについて考え，お互いが幸福な生活を送るために必要な法について話し合う。	○ ○ ○	○ ○ ○	 ○ 	○ ○ ○ ○	・授業態度 ・提出課題 ・小テスト ・プリント提出 ・定期考査
2	9	⑫地方自治と住民の福祉 ⑬選挙制度の現状と課題 ⑭世論の形成と政治参加	・地方自治の意味と地方自治の発展のための課題について自分自身の問題として具体的に考える。 ・国会議員の選挙制度はどのようなしくみか，また，どのような課題があるのかを理解する。 ・国民が政治に参加する方法にはどのようなものがあるかさまざまな手段を使って調べ，住民にとって生活しやすい政治のために必要な行動を話し合う。	○ ○ ○	○ ○ ○	 ○	○ ○ ○	・授業態度 ・提出課題 ・小テスト ・プリント提出 ・定期考査
	9	第４章　国際政治の動向と日本の役割 国際政治の動向と私たちにできること ①国家主権と国際法 ②国際連合の役割 ③第二次世界大戦後の国際社会 ④冷戦終結後の国際社会 ⑤核兵器の廃絶と国際平和	・主権国家とはどのようなものか，国際社会における国際法の役割と限界について理解する。 ・国連の成立，役割と課題について理解する。 ・第二次世界大戦後の国際社会と冷戦終結前後の国際社会の状況について，年表を使って整理し，理解する。 ・核兵器を廃絶するためにどのような取り組みがおこなわれているか，また，国際平和のために何をしなければならないか，さまざまな情報手段を活用して調べ，まとめる。 ・核兵器の問題についての知識を身につけ，それを廃絶するために何をしなければならないかを理解する。	 ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	 ○ ○ 	○ ○ ○ ○ ○	・授業態度 ・提出課題 ・小テスト ・プリント提出 ・定期考査

学期	月	学習項目	学習内容（ねらい）および評価の観点	a	b	c	d	評価方法
2	10	⑥地域紛争と人種・民族問題 ⑦国境と領土問題 ⑧日本の役割と私たちの生き方	・民族や宗教の対立による紛争にはどのようなものがあるか，人種・民族紛争の実態，難民問題について理解する。 ・国境と領土問題や日本の領土問題について，教科書の写真・地図を使用して理解する。 ・日本の外交の基本方針を理解し，アジアの一員としての日本の役割について考える。 ・国際社会における日本の役割，国際社会の一員として何をすべきか考える。	○ ○ ○	○ ○ ○	 ○ 	○ ○ ○	・授業態度 ・提出課題 ・小テスト ・プリント提出 ・定期考査
	10	第５章　現代の経済社会と私たちの生活 私たちの町と経済 ①経済と私たちの生活 ②経済体制の変容 ③現代の企業 ④市場のしくみ ⑤経済成長と景気変動	・私たちの生活と密接にかかわる経済の基本的なしくみを理解し，資本主義経済と社会主義経済の特徴を理解する。 ・企業の活動内容，企業の負っている社会的責任について理解し，株式会社の特徴についてまとめる。 ・市場の基本である「需要と供給との関係」について，正しく理解する。 ・国民所得について，教科書に掲載されている図版を適切に使用し，理解する。 ・景気変動について理解し，・経済成長は生活にどのような変化を与えるかを，具体的事例をあげて考える。	○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	 ○ 	○ ○ ○ ○ ○	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・小テスト ・プリント提出 ・定期考査
	11	⑥財政のしくみと税金 ⑦金融機関のはたらき ⑧戦後日本経済のあゆみ ⑨日本経済の現状と展望 ⑩技術革新の進展と産業構造の変化 ⑪中小企業の現状と役割 ⑫食の安全とこれからの日本の農業	・政府はどのような経済的役割をもっているかを理解する。 ・財政にはどのような機能と役割が求められているか，日本の財政の課題は何かを理解する。 ・金融機関の果たしている役割，中央銀行の金融政策について理解する。 ・第二次世界大戦終結から現在まで，日本の経済発展のあゆみについて年表を使って理解し，現在の日本経済の課題と新たな取り組みについて考える。 ・技術革新の進展による生活の変化，産業構造の変化，経済のサービス化・ソフト化について，新聞やインターネットを活用して身近な問題と関連させて考察する。 ・中小企業の現状と役割について理解する。 ・日本の農業政策の推移を理解し，これからの日本の農業，食料政策などの問題について考える。	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	 ○ ○ 	○ ○ ○ ○ ○ ○	・授業態度 ・提出課題 ・小テスト ・プリント提出 ・定期考査
	12	⑬雇用と労働問題 ⑭労働環境の整備 ⑮公害の防止から環境保全へ ⑯消費者問題と消費者主権 ⑰社会保障と福祉社会 ⑱これからの社会保障	・労働運動の展開と労働基本権について理解し，近年の雇用事情の変化について考える。 ・雇用事情の変化とさまざまな労働問題について，具体的事例をあげて多角的に考察する。 ・公害の原因と，それに対する国・企業の責任について理解し，公害を防止するためにはどうすべきか考える。 ・消費者は契約についてどのような自覚が必要かを考え，消費者問題に対する企業の責任や国の対策について理解する。 ・日本の社会保障制度の特徴，少子高齢社会の課題について理解する。 ・消費者問題，日本の社会保障について，さまざまな情報手段を活用して情報を収集し，調査した内容をまとめて話し合うなど，適切に表現する。	 ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○	 ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ 	・授業態度 ・提出課題 ・小テスト ・プリント提出 ・定期考査
3	1	第６章　国際経済の動向と日本の役割 国際経済の動向と私たちにできること ①国際分業と貿易 ②国際経済体制のあゆみ ③国際収支と為替相場 ④国際経済の動向 ⑤進む地域的経済統合 ⑥発展途上国の経済と南北問題 ⑦国際社会のこれから	・自由貿易と保護貿易の違いについて考え，自由貿易を進めるための国際機関の機能と役割について理解する。 ・自由貿易推進のために国際的な協調体制がとられてきた経緯を理解し，国際収支の変化，為替相場の変動が経済に及ぼす影響について理解する。 ・貿易の意義，円高・円安の生じる理由，経済のグローバル化について考え，身近な事例をもとにレポートを作成するなど，適切に表現する。 ・日本の貿易やアメリカ，アジアなどの貿易について理解し，貿易の拡大とそれにともなう貿易摩擦について，具体的事例をあげて考察する。 ・国際経済機構や地域的経済統合にはどのようなものがあるか理解する。 ・南北問題の原因，発展途上国のかかえている問題について理解し，南北問題解決のために日本は何をすべきか考える。	○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	 ○ ○ 	○ ○ ○ ○ ○	・授業態度 ・提出課題 ・小テスト ・プリント提出 ・定期考査

学期	月	学習項目	学習内容（ねらい）および評価の観点	a	b	c	d	評価方法
3	2	第７章　民主社会に生きる倫理 私たちの悩みと倫理 ①豊かな人生を求めて ②日本の伝統的な考え方 ③近代の西洋社会に見られる考え方 ④近代市民社会から大衆社会へ ⑤他者とともに生きる ⑥豊かな社会の実現に向けて	・哲学や宗教の役割を理解するとともに，人生を豊かに生きるとはどういうことなのかを多角的に考察する。 ・日本の伝統意識を理解し，生活の中での仏教や儒教，西洋思想の影響について，具体的事例をあげて考察する。 ・人間の尊厳や科学的なものの考え方，民主的社会を樹立するために必要な考え方の理解を深めるため，図版や原典資料を適切に使用する。 ・平等な社会の実現には，偏見を取りのぞき，主体的に努力することが求められていることを理解する。 ・差別を生み出す偏見について考え，それを克服して，ともに生きるために私たちは何をすべきか，自分自身の問題として考える。	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○	○ ○ ○ ○	・授業態度 ・提出課題 ・小テスト ・プリント提出 ・定期考査
	3	第３編　ともに生きる社会をめざして ケーススタディ ①社会保障と消費税 ②クジラは野生保護動物か，水産資源か ③人口問題と私たちの未来	・教科書に掲載されている図版や写真・資料などを適切に使用し，政治課題としてよく取り上げられる消費税について考えたり，捕鯨問題について考えたり，人口問題を通して私たちの未来を考察したりする。 ・調べた内容をまとめて発表したり，レポートを作成したりするなど，適切に表現する。	○	○ ○	○	○	・授業態度 ・プリント提出 ・発表 ・定期考査

令和　３　年度「世界史Ａ」シラバス

科目	世界史Ａ	単位	２	学年	２	
使用教科書	「高等学校　改訂版　世界史Ａ」（第一学習社）			副教材等	「改訂版　世界史Ａノート」（第一学習社）	

年間を通して，授業態度，提出課題，グループ学習，プリント提出，定期考査にて評価を行う。

学習の到達目標	近現代史を中心とする世界の歴史を諸資料に基づき地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解させ，現代の諸課題を歴史的観点から考察させることによって，歴史的思考力を培い，国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。

評価の観点			
ａ．関心・意欲・態度	ｂ．思考・判断・表現	ｃ．資料活用の技能	ｄ．知識・理解
歴史的・地理的事象に対する関心と問題意識を高め，　意欲的に追究するとともに，　国際社会に主体的に生き国家・社会を形成する日本国民としての責任を果たそうとする。	歴史的・地理的事象から課題を見いだし，我が国及び世界の形成の歴史的過程と生活・文化の地域的特色を世界的視野に立って多面的・多角的に考察し，国際社会の変化を踏まえ公正に判断して，　その過程や結果を適切に表現している。	歴史的・地理的事象に関する諸資料を収集し，有用な情報を適切に選択して，効果的に活用している。	我が国及び世界の形成の歴史的過程と生活・文化の地域的特色についての基本的な事柄を理解し，　その知識を身に付けている。

学期	月	学習項目	学習内容（ねらい）および評価の観点	a	b	c	d	評価方法
1	4	第１編　世界史へのいざない 第１章　自然環境と歴史 第２章　日本列島のなかの世界の歴史	・地理とのつながりで歴史に対する関心を高め，自然環境と人類の活動が相互に作用しあっていることについて考察する。 ・鉄砲伝来や石見銀山の事例から，地図や年表に表す活動を通して，日本の歴史が世界の歴史とつながっていることを理解する。	○	○	○	○ ○	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・定期考査
		第２編　世界の一体化と日本 第１章　ユーラシアの諸文明 １節　東アジア	・東アジアの特質に対する関心を高め，中国の皇帝政治や北方民族との関係，東アジアの国際秩序について理解する。 ・漢字・儒教・仏教などに関する様々な資料を活用して東アジアの特質を理解するとともに，日本の文化とも関連付けて多角的に考察し，その結果を適切に表現する。	○	○	○	○	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・定期考査
		２節　南アジア ３節　東南アジア	・南アジアの多様性について関心を高め，南アジアの宗教に関する様々な資料を活用して，各宗教が及ぼした影響について考察し，その結果を適切に表現する。 ・東南アジアにおける多様な社会・文化の形成について把握し，基本的知識を身に付ける。	○	○	○	○	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・定期考査
	5	４節　西アジア ５節　ヨーロッパ	・西アジアで古くから文明が栄えた背景に関心を高め，オリエント・イラン文明について，日本への影響を考察し，その結果を適切に表現する。 ・西アジアに生まれたイスラームが広大な地域に急速に拡大し，独自の世界を形成したことを理解し，その知識を身に付ける。 ・ギリシア・ローマ文明がヨーロッパ世界の形成に与えた影響について把握し，その知識を身に付ける。 ・キリスト教がヨーロッパ文明の基調となり今日まで受け継がれていることを，思想・文学・日常の慣行や儀礼などの諸資料を活用して考察し，その結果を適切に表現する。	○	○ ○	○	○ ○	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・定期考査
		６節　アフリカ ７節　アメリカ ８節　ユーラシアの海の交流 ９節　ユーラシアの陸の交流	・アフリカに古くから独自の文明や王国が存在したことに関心を高め，大河の流域ごとにアフリカの諸王国の特徴を理解する。 ・アメリカの文明の特色を，ユーラシアの諸文明と比較して考察し，その結果を適切に表現する。 ・ムスリム商人，中国商人の活躍についての資料を活用し，海のネットワークの概要と交流の具体的様相を把握し，基本的知識を身に付ける。 ・遊牧国家の特徴やモンゴルによるユーラシアの一体化について理解し，その知識を身に付ける。	○	○	○	○ ○ ○	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・定期考査

学期	月	学習項目	学習内容（ねらい）および評価の観点	a	b	c	d	評価方法
	6	第２章　結びつく世界と近世の日本 ①～⑥	・14 世紀から 18 世紀にかけての陸と海の動向について関心を高め，アジア諸地域の特質とその中での日本の位置付けを理解する。 ・イスラーム世界の成熟について，オスマン帝国の宗教政策の視点から考察し，その結果を適切に表現している。 ・明・清帝国と朝鮮・日本との関係，ムガル帝国・サファヴィー朝・オスマン帝国の動向に関する資料を活用し，基本的知識を身に付ける。	○	○	○	○	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・定期考査
		第２章　結びつく世界と近世の日本 ⑦～⑨	・ルネサンスと宗教改革について関心を高め，その歴史的背景について考察し，その結果を適切に表現する。 ・「大航海時代」のヨーロッパとアメリカ大陸との接触・交流に関する資料を活用し，アメリカ大陸の先住民社会の変貌について理解する。	○	○	○	○	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・定期考査
	7	第２章　結びつく世界と近世の日本 ⑩～⑬	・16 世紀から 18 世紀にかけてのヨーロッパ諸国の動向と国際関係の推移に関する資料を活用し，その知識を身に付ける。 ・世界の一体化とそれに伴うアフリカ・アメリカの変容について関心を高め，多角的に考察し，その結果を適切に表現する。 ・主権国家体制の成立と大西洋貿易の展開によるヨーロッパ社会の変容について理解し，その知識を身に付ける。	○	○	○	○ ○	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・定期考査
		第３章　ヨーロッパ・アメリカの工業化と国民形成 ①～⑥	・イギリス産業革命の背景を世界史的視野からとらえ，産業革命の結果，資本主義経済が確立したことを理解する。 ・産業革命が果たした歴史的意義について，関連する資料を活用して考察し，その結果を適切に表現する。 ・アメリカ独立革命・フランス革命・ラテンアメリカ諸国の独立について関心を高め，それらの背景と影響について多角的に考察し，その結果を適切に表現する。 ・アメリカ独立革命，フランス革命，ラテンアメリカ諸国の独立が果たした歴史的意義について考察し，関連する資料を活用して基本的知識を身に付ける。 ・アメリカ独立革命，フランス革命，ラテンアメリカ諸国の独立が相互に関連をもちながらおこったことを理解する。	○	○ ○ ○	○ ○	○ ○	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・定期考査
2	9	第３章　ヨーロッパ・アメリカの工業化と国民形成 ⑦～⑫	・ウィーン体制下での自由主義・国民主義の運動について関心を高め，その歴史的意義を考察し，その結果を適切に表現する。 ・国民主義の高まりがドイツ・イタリアでの国民国家形成の原動力となったことを理解し，国民国家形成までの過程を把握する。 ・ロシアの対外進出の背景を理解し，その動きがもたらした影響について多角的に考察し，その結果を適切に表現する。 ・西部開拓と先住民・アフリカ系の人々への抑圧，移民の流入についての資料を活用し，アメリカの国民形成の独自性について理解する。	○	○ ○	○	○ ○ ○	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・定期考査
	10	第４章　アジア諸国の変貌と近代の日本	・ヨーロッパを中心とするアジアでの国際分業体制の形成について，近代世界システム論の視点から意欲的に追究し，19 世紀の世界の一体化とその特質を考察し，その結果を適切に表現する。 ・ヨーロッパの進出期におけるアジア諸国の状況，植民地化や従属化の過程での抵抗と挫折，伝統文化の変容，その中での日本の対応に関する資料を活用し，アジア諸国の内部で進行していた変化とヨーロッパの進出によって引き起こされた変貌について考察し，その結果を適切に表現する。 ・日本の明治維新とその後の近代化の動きがアジア諸国に与えた影響について考察し，その知識を身に付ける。 ・ヨーロッパの植民地支配に対する抵抗運動の高まりや近代化の動きについての資料を活用し，ヨーロッパの侵略にさらされたアジア・アフリカの変貌と諸民族の民族的覚醒について考察し，その結果を適切に表現する。	○	○ ○ ○ ○	○ ○	○	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・定期考査

学期	月	学習項目	学習内容（ねらい）および評価の観点	a	b	c	d	評価方法
	11	第３編　地球社会と日本 第１章　帝国主義の時代	・帝国主義列強の世界政策によって世界がどのように変容したか，意欲的に追究する。 ・帝国主義列強の植民地支配についての資料を活用し，民族・国境など現在まで残る問題と関連付けて考察し，その結果を適切に表現する。	○	○	○	○	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・定期考査
		第２章　急変する人類社会	・19 世紀末から 20 世紀初頭にかけての社会の急激な変化についての資料を活用し，現代の社会と関連付けながら考察し，その結果を適切に表現する。 ・19 世紀末から 20 世紀初頭にかけての欧米諸国や日本などに見られた社会の急激な変化を意欲的に追究し，現代社会の原型が成立したことを理解する。	○	○	○	○	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・定期考査
		第３章　世界戦争と平和 ①～⑥	・第一次世界大戦の原因について，これまでに学習したことと関連付けて，意欲的に追究する。 ・第一次世界大戦についての資料を活用し，第一次世界大戦の性格と第一次世界大戦がもたらした世界の変化について考察し，理解する。 ・ロシア革命とソ連の成立について，政治的・思想的影響について考察し，その結果を適切に表現する。 ・国際連盟やヴェルサイユ・ワシントン体制の理念と現実，アジア諸国の民族運動について理解し，国際社会の枠組みの変化について把握する。 ・第一次世界大戦後の世界の変化について，第二次世界大戦へとつながった問題点を含め，多角的に考察し，その結果を適切に表現する。	○	○ ○	○	○ ○	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・定期考査
	12	第３章　世界戦争と平和 ⑦～⑪	・世界恐慌からファシズムの台頭，第二次世界大戦に至るまでの過程を互いに関連付けながら，意欲的に追究する。 ・世界恐慌の原因と影響，各国の恐慌対策，ファシズム台頭の背景と経過についての資料を活用し，第二次世界大戦の原因を考察し，その結果を適切に表現する。 ・第二次世界大戦の性格と，その過程で生じた米ソ冷戦の芽や原爆使用の意味について理解し，その知識を身に付ける。	○	○	○	○	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・定期考査
３	１	第４章　三つの世界と日本の動向	・米ソ両陣営の対立，アジア・アフリカの民族運動と植民地支配からの独立に対する関心を高め，1970 年頃までの世界の政治・経済の動向について考察し，その結果を適切に表現する。 ・米ソ両陣営の対立，アジア・アフリカの民族運動と植民地支配からの独立についての資料を活用し，1970 年頃までの世界の政治・経済の動向について理解する。 ・アジア・アフリカの民族独立運動，第三世界の台頭とその国際的役割，アジア・アフリカ諸国が抱える諸問題について理解し，その知識を身に付ける。	○	○	○	○ ○	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・定期考査
	２	第５章　地球社会への歩みと課題	・1970 年代以降の地球社会形成に向けての諸地域世界の情勢に関する資料を活用し，その知識を身に付ける。 ・東欧諸国の民主化とソ連の社会主義体制の崩壊について関心を高め，その歴史的意味を多角的に考察し，その結果を適切に表現する。 ・新聞やインターネットなどから国際社会の新しい動きや問題点についての情報を収集し，有用な情報を選択して活用する。 ・現代社会の問題点を把握し，その解決のために日本が果たすべき役割について考察し，その結果を適切に表現する。	○	○ ○	○ ○	○	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・定期考査
	３	第６章　持続可能な社会への展望	・現代社会の特質や課題について自ら主題を設定し，主体的な探究を通して，歴史的視野から認識を深め，持続可能な社会の実現について展望する。 ・現代社会の特質や課題に関する資料を収集・選択・活用するとともに，探究した成果を論述したり，討論したりする。	○	○ ○	○	○	・課題レポート ・課題発表

2021年度「政治・経済」シラバス

科目	政治・経済	単位	2	学年	3
使用教科書	「高等学校　新政治・経済」（第一学習社）	副教材等	「ニュース検定時事力　基礎編3･4級」(毎日新聞出版)		

【課題・提出物など】　課題・プリントなど

【評価方法】　評価については、考査のみで評価するのではなく、総合的・観点別の評価などを導入する。考査評価を60%ととし、課題・提出物の仕上がり状況を40%とする割合で評価していく。

【年間の学習状況の評価方法】　各学期の評定をもとに、1 年間の生徒の活動を評価に入れる。その際、以下の４つの評価基準を踏まえた評価となるように配慮する。

評価の観点			
a.関心・意欲・態度	b.思考・判断	c.資料活用の技能・表現	d.知識・理解
現代の政治、経済、国際関係に対する関心を高め、意欲的に課題を追求するとともに、国家・社会の一員として平和で民主的な社会生活の実現と推進について客観的に考えようとする。	現代の政治、経済、国際関係にかかわる事柄から課題を見出し、その本質や特質、望ましい解決の在り方について広い視野に立って多面的・多角的に考察するとともに社会の変化やさまざまな立場、考え方を踏まえ公正に判断する。	現代の政治、経済、国際関係にかかわる諸資料をさまざまなメディアを通して収集し、有用な情報を主体的に選択し活用するとともに、追究し考察した過程や結果をさまざまな方法で適切に表現する。	現代の政治、経済、国際関係に関する基本的な事柄や本質、特質及び動向を捉える基本的な概念や理論を理解し、その知識を身につけている。

学期	月	学習項目	学習内容（ねらい）および評価の観点	a	b	c	d	評価方法
1	4	第１編　政治に親しむ 第１章　政治の基本原理を知るための４項目 ①現代と政治 ②民主政治の基本原理 ③民主政治のあゆみ ④世界の政治制度	・民主政治の本質を把握しながら，政治と私たちとの関わりについて理解する。 ・基本的人権が確立するまでの歩みを理解しながら，現代の政治の特質について考察する。 ・自由権と社会権の違いと人権保障の背景を理解し，民主主義についても考察する。 ・各国の状況をインターネットや書籍を利用して調査する。 ・民主主義のあり方について理解するとともに，現代政治の特質について把握する。	○ ○ ○	○ ○	○	○ ○ ○	・授業態度 ・課題提出
	5	第２章　日本国憲法を知るための７項目 ①日本国憲法の基本的性格 ②基本的人権の保障（平等権） ③基本的人権の保障（自由権） ④基本的人権の保障（社会権） ⑤基本的人権の保障（参政権） ⑥基本的人権の保障（新しい人権） ⑦日本国憲法の平和主義	・日本国憲法の成立過程を理解しながら，日本国憲法のもつ意味について考察する。また，三大原理についても理解する。 ・日本国憲法の全体像にふれながら，平和や人権などの問題を考える。 ・基本的人権，新しい人権について，意欲的に理解を深め，その本質を把握する。 ・人権に関する判例を活用しながら，権利と義務などについて理解する。 ・人権を主張する際，時として「公共の福祉」が絡むことを理解する。 ・自衛隊・憲法改正問題など昨今の憲法に関するさまざまな論点について感心を深める。	○ ○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○	・授業態度 ・課題提出
	6	第３章　政治のしくみを知るための６項目 ①国会のしくみと役割 ②内閣のしくみと役割 ③裁判所のしくみと人権保障 ④政治と政党 ⑤選挙制度の	・国会，内閣，裁判所などの政治機構にふれながら，主権者としての政治に対する関心を深める。 ・国会・内閣・裁判所の関係とそれぞれの役割について，意欲的に理解する。 ・日本国憲法下での立法・行政・司法のあり方について，問題点も含め，幅広い視点から考察する。 ・国会・内閣・裁判所に関する題材をさまざまなメディアを通して収集する。 ・法律の制定過程や裁判のしくみなどについて正しく理解する。 ・内閣の権限や違憲法令審査権について，正しく把握する。 ・望ましい政治のあり方や，主権者としての参政のあり方について考察する。	○ ○ ○ ○	○ ○ ○	○	○ ○ ○	・授業態度 ・課題提出 ・定期考査

		しくみ ⑥世論と現代民主政治の課題	・選挙制度について学び，参政権の保障が国民主権へと連なっていることを認識する。 ・マス・メディアの果たす役割と問題点を理解し，世論の果たす役割が大きいことについて認識する。 ・選挙結果の分析などを，新聞・テレビ・週刊誌・インターネットなどのさまざまな情報手段を活用して調査する。 ・マス・メディアがもつ影響力を把握しながら，報道は一つの判断材料であることを理解する。	○ ○ ○	○ ○ ○	 ○		
		第４章　国際政治のしくみを知るための４項目 ①国際政治と国際法 ②国際連合のしくみと役割	・国際連合の役割を理解する。また，現実には国際連合はどのような問題を抱えているのかについても把握する。 ・冷戦終結後の国際社会の動向について理解する。 ・冷戦終結後の世界が，冷戦時代と比べてどのように変化したのかについて，意欲的に理解を深める。	○ ○	 ○		○ ○ ○	・授業態度 ・課題提出 ・定期考査
	7	③国際政治の展開 ④日本の国際的地位と役割	・民族紛争などを例に，複雑な国際関係を幅広い視点から考察する。 ・国際平和のために，日本が貢献できることは何かについて，さまざまな視点で考察する。 ・国際平和に関する問題について，さまざまなメディアを利用して調査する。	 ○	○ ○ 	 ○	○ 	
	7	第２編　経済を愉しむ 第１章　経済のしくみを知るための９項目 ①家計・企業・政府のはたらき ②現代の企業 ③市場経済のしくみ ④物価の動向 ⑤金融のしくみとはたらき ⑥財政のしくみと租税	・家計・企業・政府が互いにどのように関わりあいながら国民経済を構成しているのかを理解する。 ・市場の基本である「需要と供給との関係」について，正しく理解する。 ・独占，寡占状態の市場での消費者に対する影響と，その弊害を排除するための措置について理解する。 ・株式会社とはどのようなものであるのかを，所有と経営の両面から理解する。 ・財政の基本的なしくみや役割について理解する。 ・日本の財政の現状を理解し，経済活動のあり方と福祉の向上について考察する。 ・金融機関をはじめ，日本経済が抱えている問題について認識する。	○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○		 ○ ○ ○ ○ 	・授業態度 ・課題提出
1	7	⑦国民所得と経済成長 ⑧景気循環のしくみ ⑨資本主義と社会主義	・資本主義経済の特徴を，社会主義経済の特徴と比較し理解する。 ・経済の基本的な概念や経済理論を学習することによって，現代経済の特質について考える。		○ ○		○ ○	・授業態度 ・小テスト ・課題提出
2	9	第２章　国際経済のしくみを知るための３項目 ①貿易と国際収支 ②国際経済の展開 ③国際経済における日本	・国際経済に関する基本的な概念や理論を理解しながら国際経済における日本が果たすべき役割について考察する。 ・為替相場の国際経済における重要性について認識する。 ・ヒト，モノ，カネの国際的な移動が，世界経済に与える影響について，関心を高める。 ・円高・円安が，自分の生活にどのように影響するかについて関心をもつ。 ・ＧＡＴＴの歩みとＷＴＯの役割について，理解する。 ・グローバリゼーションと地域的経済統合について関心をもち，世界地図やインターネットなどを利用しながら具体的に考察する。 ・国際協調のために，どのような国際機関が存在するか，把握する。	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○		 ○ ○ ○ ○ ○	・授業態度 ・課題提出
	10～12	課題編　課題に挑む 第１章　現代日本が挑む９つの課題 ①情報化の進展と市民社会 ②消費者問題と消費者保護 ③産業構造の変化と中小企業 ④農業と食糧の問題	・現代の日本が抱える課題を，政治と経済との関連に留意しながら，さまざまな角度（視点）から考え，望ましい解決のあり方を考える。 ・現実社会の諸課題は，政治と経済が深く結びついていることを理解する。 ・生活に関連する面を中心に関心を高め，意欲的に理解を深める態度を身につける。 ・対比する意見などをもとに，さまざまな意見・論調に積極的にふれる。 ・第１編・第２編の学習の成果の上に立って課題を追究する。 ・簡単なレポートを書いたり，ディベートなどを行ったりする。 ・具体的事例をもとに，それぞれの問題を多角的，多面的に追究し，望ましい解決方法を考察する。 ・政治と経済は密接に関連しており，互いに影響を与えていること	○ ○ ○ ○ 	 ○ ○ ○	 ○ ○ 	○ ○ ○ ○ 	・授業態度 ・課題提出 ・定期考査

		⑤公害防止と環境保全 ⑥労使関係と労働市場 ⑦少子高齢社会と社会保障 ⑧住民生活と地方自治 ⑨大きな政府と小さな政府	を理解する。 ・それぞれの課題には，さまざまな角度からの対応策があることを把握しながら，幅広い視点から考察することを身につける。	○	○			
			・政府はどのような経済的役割をもっているかを理解する。 ・財政にはどのような機能と役割が求められているか，日本の財政の課題は何かを理解する。 ・金融機関の果たしている役割，中央銀行の金融政策について理解する。 ・第二次世界大戦終結から現在まで，日本の経済発展のあゆみについて年表を使って理解し，現在の日本経済の課題と新たな取り組みについて考える。 ・技術革新の進展による生活の変化，産業構造の変化，経済のサービス化・ソフト化について，新聞やインターネットを活用して身近な問題と関連させて考察する。 ・中小企業の現状と役割について理解する。 ・日本の農業政策の推移を理解し，これからの日本の農業，食料政策などの問題について考える。	○ ○	○ ○ ○ ○	○	○ ○ ○ ○ ○	・授業態度 ・課題提出 ・定期考査
3	1 ～ 2	第２章　国際社会が挑む６つの課題 ①地球環境問題 ②核兵器と軍縮 ③人種・民族問題 ④国際経済格差の是正と国際協力 ⑤経済・文化摩擦と外交 ⑥国際社会における日本の役割	・国際社会における課題は複雑なものであり，そのため国際的な視点から追究しながら，日本の役割について考察する。 ・国際社会の課題は，政治・経済の枠をこえたものが多く，国際関係に大きな影響を与えることを認識する。 ・さまざまな観点から課題を追究する態度を身につけ，国際社会における日本の役割について考察する。 ・身の回りの具体的な事例をもとに，地球環境問題などの世界的な諸問題について考察する。 ・第１編・第２編の学習の成果の上に立って課題を追究する。 ・国際社会における諸課題を日本の立場や役割から考察する。	○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○			・授業態度 ・課題提出 ・卒業考査